

Rotary



世界に希望を生み出そう

CREATE HOPE in the WORLD



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会長 石川 元信 幹事 谷田部 修 会報・雑誌委員長 田崎 信孝

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3040号 2024年4月2日(曇り) 第36回例会 会員数103名

ハイブリッド例会

点鐘 石川(元)会長
司会 副SAA 杉本会員

◇国歌「君が代」

◇ロータリーソング「四つのテスト」

◇本日のランチ チキンカレー サラダ 薬味



ビジター紹介

小林(正)副会長

◇来訪ロータリアン

1名(1クラブ) 累計26,641名

卓話者 学校法人船田教育会 作新学院大学・
作新学院大学女子短期大学部

学長 渡邊 弘様(宇都宮RC)

※本日予定していた船田会員の卓話は、新幹線運
転見合わせの影響で渡邊様に変更

会長挨拶

石川(元)会長

皆様、こんにちは。本日は急遽、渡邊学長にお出でいただいた卓話となります。拝聴させていただきますこと、楽しみにしております。

私は昨日まで、管長の就任式へ出席のため、京都おりました。「見渡せば柳桜をこきませて都ぞ春の錦なりける」、桜や新緑が綺麗になってきました。今月は「環境月間」ということです。私は古墳が好きなのですが、奈良県の古墳に太陽光パネルが引き詰められるという記事をみました。地球環境のこといろいろと数値目標があります。再生エネルギーということで太陽光パネルの設置を推進しているとは思うのですが…。「見渡せば柳桜をこきませて」ではなく、黒いパネルが溢れてしまうのはいかがなものかな、というのが私の考えであります。五代目市川團十郎が詠った「たのしみは春の桜に秋の月 夫婦仲良く三度食うめし」という歌があります。日本というのは緑と季

節折々の季節感、自然が身近だったと感じます。
そういう国土を残していきたい。それが出来ることが、環境を保全する、ということだと私は思っております。ちょっととした雑感であります。

◇(R) 米山記念奨学会より表彰

<米山功労者>

マルチプル 金澤 正英会員(2回目)

◇R財団よりポリオプラス・ソサエティ登録者へ
登録証とピンバッチの授与

羽石 光臣会員 高野 藤房会員

宮下 浩会員 石川 元信会員

◇米山記念奨学会よりクラブ及びカウンセラーへ
委嘱状の授与

カウンセラー:辻 裕司会員

奨学生:何 葵尼(カ ジェニー)

国籍:台湾

期間:2024年4月1日~2025年3月31日

在籍校:文星芸術大学



幹事報告

谷田部(修)幹事

◇ロータリーレート 4月は1ドル151円。



委員会報告

◇スマイルボックス委員会 菊地(正)委員長
床井光雄会員

宮ゆずルームスプレー発売しました。ゆずの香りで癒されて下さい。只今販売店募集中。
片嶋常隆会員

初めての孫が誕生しました。生まれてきてく
れてありがとうございます。みんなに感謝です。

◇親睦委員会 山崎副委員長

<誕生日祝い・4月>

会員誕生

金田 剛、中村 明、鈴木 明、

太城 敏之、山中 和弥
各会員
夫人誕生
羽石 光臣、石川 和重、谷田部 修、
谷田部勝寛
各会員の奥様
・春の親睦家族ハイキング、4月21日開催。参加希望の方は4月10日迄に申し込みを。



卓 話

「宮城まり子とねむの木学園」



学校法人船田教育会 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 学長 渡邊 弘 様

皆様、こんにちは。理事長の船田元の代わりにお話させていただきます。私は宇都宮RCにも所属しており、奉仕の精神に則つていろいろやっています。今日は、私が35年以来お付き合いさせていただいた宮城まりこさんについての本「宮城まり子とねむの木学園～愛が愛を生んだ軌跡～（渡邊弘：著）」を、奉仕ということでは相応しいと思い用意させていただきました。ねむの木学園は掛川市にあり、私は理事をしています。

—パワーポイントにて説明—

宮城さんは、1927年生まれ、本名は本目眞理子さんです。歌手・女優として活躍し、「ガード下の靴みがき」は大ヒットしました。12歳の時に母親、31歳の時に指揮者でもある弟の八郎さん、その一年後には父親を亡くし、天涯孤独となります。

女優として演技の勉強をする中、いろいろな子どもとの出会いがあり、「就学猶予」という言葉を知ります。病弱、発育不完全その他やむを得ない事由のため親が面倒をみられない場合、親は子どもを学校に行かせなくともいい、という就学猶予が学校教育法にありました。宮城さんは、「どんな子も学ぶ権利、教育を受ける権利があるのに、それはおかしいのではないか」と、日本にまだ法律が出来ていない1968年、日本で初めて、肢体不自由児養護施設「ねむの木学園」を旧浜岡町に設

立しました。1973年によく國に正式に肢体不自由児養護施設の制度ができました。宮城さんは、教育関係者では気が付かない盲点を自分の体験で見つけて、そういう子ども達に光をあてた非常に重要な人だったと思います。こういう子ども達がいるんだ、ということを、24時間テレビマラソン等の先駆けである、チャリティーテレソングで訴えていきます。しかし、女優の人気取りなのではないかと言われたり、様々な苦労をしました。

1974年、ねむの木の学園の映画を作り、国際赤十字のグランプリ賞をとった「ねむの木の詩が聞こえる」や、ニューヨークのハーレムの子ども達とのドキュメンタリー「ハローキッズ！がんばれ子どもたち」等の映画を次々に作って、世界中にアピールしていきます。1979年に、特別支援学校を併設。さらに、高校を作ります。高等部を作ったことによって、大学までの子ども達の可能性が開かれたと、とても喜ばれました。

宮城さんの夢は、子ども達だけでなく、身寄りのないお年寄り等も一緒に住める、生活できる場所をつくりたいということでした。オランダのヘット・ドルプというモデルになる村があります。国、掛川市にかけて、1994年に工事が始まり、いろいろな支援もあって、1999年に「ねむの木村」が完成しました。84万平方メートルという広さで、桜木池を中心に学園があります。社会福祉法人ねむの木福祉会、学校法人ねむの木学園、特別支援学校ねむの木があります。また、応援してくれた吉行淳之介の文学館や美術館等もあり、いろいろな方が見学や遊びに来ます。皇上皇后陛下も応援してくださっています。

宮城さんは「ダメな子なんか一人もいない」といい、教育の方針は、「生きていくお手伝いなんだ」と言います。例えば、絵を描くお手伝い、ということでいろいろな工夫をしました。「ねむの木学園」の子ども達を有名にさせたのは、絵だと思います。ミスターードーナツの店で絵を飾る等、様々な企業がバックアップしてくれています。世界的にもいろいろな所で展示され、感動していただき、賞を貰っています。宮城さんのモットーというか、この学園の合言葉が「やさしくね やさしくね やさしいことはつよいのよ」です。宮城さんは、「やさしいというのは強いこと、相手を変え自分を変える力なんだ」と常におっしゃっていました。宮城さんという方がいた。そしてその精神が今も続いているということをお判りになっていただければと思い、お話をさせていただきました。